

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年5月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105222
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西伊敷
所在地	鹿児島県鹿児島市西伊敷4丁目45番5号 (電話) 099-228-2772
自己評価作成日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年4月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に位置し、広い敷地には季節の野菜や花を植え、利用者の方々と共に草取り、肥料やりなどで端正に育て、収穫しては共に調理して食すなどしています。新型コロナの影響でご家族との面会が困難な状況ではありますが、窓越し面会や電話を利用してご家族との関係性が薄くなることの無いようにしています。また、業務にとらわれず、朝の集い等で想いや意向を伺い、ドライブや買い物に出かけるなど、臨機応変な業務を行い、常に利用者主体のケアに取り組んでいます。年間行事計画には、毎月の鉄板焼きや季節ごとの催し物で楽しんで頂けるように心掛けています。また、身体機能の維持向上を図る目的で個別に体操、生活リハビリにも力を入れた支援を実施しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は静かな住宅街にありながら、近くにスーパーマーケットや銀行・コンビニ・郵便局等があり、便利の良い場所にある。広い敷地内の庭の菜園で収穫した旬の野菜や果物を食材として使い、献立も利用者のリクエストを取り入れている。また、コロナ禍でも楽しみが持てるよう感染対策を徹底し、毎月鉄板の日を設けている。
- ・毎月おたよりで検診報告書、行事のスナップ写真、医療費や雑費の領収書、個別の生活状況を送付報告している。家族や知人との関係が途切れることのないように、面会の方法や外出の方法等、家族や利用者職員と相談をして良い方法を検討している。
- ・協力医療機関とは24時間オンコール体制で医療連携をはかり、適切な医療が受診できるように支援している。利用者の身体機能の維持にも積極的に取り組み、個別にリハビリを取り入れている。
- ・管理者は職員の意見や提案を聞き、働きやすい環境作りを心がけている。職員間も仲がよく有給や勤務の交代等、職員が相談しやすく声掛けし合える関係である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて理念の唱和を行い、研修で理念について学ぶことで、当ホームの理念を意識して各人のケアに取り組みようとしています。	理念はホールに掲示し、パンフレットに記載している。毎日朝礼時に各フロアで唱和し、意識してケアの実践をしている。内部研修で理念について学び、振り返りをして行く予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で現在はほとんど交流が出来ていない状態ではありますが、町内会に入ることによって新型コロナが落ち着いた際には地域との交流が出来るように準備しています。	町内会に加入し、回覧板もある。全体活動は自粛中だが、近隣へ散歩に出かけた際は挨拶をしたり、家族から野菜の差し入れがある。ホーム内の地域交流室を町内会に開放している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症についての勉強会を開催し、認知症についての理解を深めています。また、家族や地域の方々の相談に応じることが出来る事をお伝えしており、相談のあった事柄に対応する事でも学んでいけるようにしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響で運営推進会議がホームの職員のみでの開催となっているため、第三者からの意見が頂きにくい状態である。運営推進会議の前に電話連絡にて意見は伺っているが、ご家族の要望にお応え出来る事が少なく、出来る範囲で要望に応えることが出来るようにしている。	コロナ禍の為ホーム職員のみで2ヶ月ごとに会議を開催している。ホームの現状とアクシデント報告、コロナ対策状況、今後の予定等、関係者や地域包括支援センターへ議事録を送付し報告している。意見はサービス向上に活かせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>ホームの運営や相談事など、必要に応じて、市の担当者に助言をもらいながら対応しています。新型コロナの状態が落ち着いた状態であるため、とくに行政との関わりを積極的に取り組んでいきたいと思っています。</p>	<p>市担当者とは、介護保険の更新申請時や困難事例の相談等、窓口に出向き必要に応じて助言をもらっている。行政とは積極的に関わり、情報が得られるよう取り組んでいる。介護相談員の受け入れや市主催の研修にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束マニュアル作成し、絶対に心身の拘束は行わない事を基本としており、現状では身体拘束は行われておりません。今後生命・身体に害を及ぼす可能性があった際は、家族と検討し、市の担当者にも助言をもらい対応していくつもりです。</p>	<p>マニュアルがあり毎月、虐待や身体拘束についての勉強会を開催している。日常でスピーチロックに気付いた時は、職員間でお互いに声かけ合っている。日中、玄関施錠はせず、外出希望者は敷地内を一緒に散歩や外気浴をして気分転換を図っている。夜間のみセンサーを使用し、毎月カンファレンスで話し合い記録している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を毎月行うことで虐待についての意識を高め、事業所内だけではなく、自宅での虐待も起こることがないように注意をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての外部研修に参加し、その研修での学びを内部研修を行うことで再確認や他職員の学びになり、理解・活用出来るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の際にはゆっくり時間を取り説明をしています。疑問については、その都度細かに説明を行うように心がけています。また、変更がある場合は書類作成し家族会や個別で説明し同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	新型コロナの影響で年に2回予定されている家族会が行われておりませんが、面会や電話を利用する事で、ご家族の意向を伺い運営に反映させることが出来るようにしています。	利用者からは日々の関わりの中で聞いている。家族からは面会に来られた時や電話等で意見や要望を聞いている。毎月のおたよりで全体と個人の写真、生活状況、検診報告書、医療費や雑費などの領収書を郵送報告し、意見や要望は運営に反映させるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング等で運営に関しても意見交換を行うことで、運営に反映出来るようにしています。また、個別での相談にも応じるように代表者も協力体制を作っています。	管理者は毎月のミーティングや日々の関わりの中で意見や提案を聞いている。感染対策に必要な備品購入や体圧分散マット、体位変換マットの購入、コロナ禍で外出困難なため、施設内でのイベントとして鉄板焼きパーティーを開催する等、意見を反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、管理者より職員個々の努力や勤務状況を把握するように聞き取りを行っており、勤務形態や給与・職場環境の改善に努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修・外部研修に積極的に参加出来るように、研修費の法人負担や勤務の調整を行うことで、職員への支援を実施しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は毎月の管理者会議に出席し、他ホームの取り組みを確認し職員へ通達しています。また、法人が研修等を開催する事で交流の場を作っており、参加の際に情報交換が出来るような環境作りに取り組んでいます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族の許可を得た上でご本人との面談を行い、直接不安ごとや要望をうかがうようにしており。安心して生活することが出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族にも時間を取って頂き面談を行うことで、今までの生活状況やニーズを把握し、定期的に想い・意向を伺うことで信頼関係を築くことが出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談を通して、何が一番必要であるのか、本人・家族と共に検討し他サービスを含めた柔軟な対応が出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の要望や意向について尋ねながら、できる限り本人の希望に沿うことが出来るような環境作りを本人と一緒にを行うことで、暮らしを共に出来るような環境作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月のお便りで病院の受診結果・生活状況の記録・ホームの行事等を案内することで、ご本人の現状を把握して頂き、ケアプランの中には必ずご家族も役割を持っていただくことで共に支えていけるような関係作りに努めています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>新型コロナの影響で、機会は減っていますが、ご家族の了承のもと、知人との面会もできるようにしています。また、新型コロナが落ち着いたら外出して馴染みの場所へもいけるように支援しています。</p>	<p>コロナ禍の為、窓越しやパーティションを使用し、面会をしている。年賀状や暑中見舞い、電話の取り次ぎ等で馴染みの人との関係が途切れない支援に努めている。訪問理美容も活用している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が安心して生活ができるように、ホールでの座席やそれ以外の場所の環境を整えるとともに、見守りや介助を行うことで、一人一人が孤立することの無いように配慮しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終わった後でも必要時には相談を受けており、ご親戚等の入居相談も受け付けております。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一日の中でお一人お一人と寄り添う時間を作り、要望を確認する事で本人本位のケアができるように心掛けています。思いを伝えることが困難な方に対しては、ご家族と話し合いながらご本人が望む生活について検討しています。	入浴時やホールで寛いでいる時に声掛けし、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情の変化、動作や仕草等、家族からの電話での聞き取り、生活歴等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より、情報収集を行うとともに、関係のある医療機関や施設等への聞き取りを行う事でこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を記録に残しており、本人の現状について職員全員で情報の共有を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに本人や家族に参加して頂いており、その情報を基に介護計画を作成することでより現状に即したケアが出来るような介護計画作りを心がけています。	本人・家族の意見や受診時の主治医や職員の意見・リハビリの状況等をもとに、現状に即した介護計画を作成し、担当者会議で確認している。モニタリングは3ヶ月で変化があれば見直し、6ヶ月毎に見直している。状況変化時はその都度見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>実施記録だけではなく、申し送りノートを利用してお一人お一人についての気づきや状況の共有に努め、日々の見直しに生かせるようにしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の現状に応じて、その時に一番必要なサービスは何かを日々確認しながら、柔軟性のあるサービス提供の為の横のつながりも大切にしています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>新型コロナの影響で地域資源を使える状況ではないが、資源についてはあくは心がけており、新型コロナが落ち着いた際には直ぐに活用することが出来るように準備をしています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医については、これまでの生活歴の一つと考えており、本人や家族の意向でかかりつけ医を決めています。</p>	<p>入所前からのかかりつけ医と協力医療機関との関係を築きながら他科受診は家族が、入居時の検診や定期受診、歯科受診は職員が同行している。受診の結果は毎月のお便りに同封して家族へ送付している。緊急時は電話で報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>必要時には、訪問看護を利用できるように関係機関との連携を行っています。また、日々の状態については、かかりつけの病院看護師が直ぐに相談に乗ってくださることで適切な受診や看護を受けることが出来るようにしています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の段階で医療機関に対して早期の退院をお願いするとともに、入院先の病院と連絡を取ることで早期退院が出来るように努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に意向を聴くだけでなく、本人の状態をお伝えする際にこれからの意向についての確認をしており、早い段階で本人が望む状態での終末期に向けた支援が出来るように心がけています。</p>	<p>マニュアルは現在作成中なので口頭で説明し、同意書を貰っている。重度化した場合は早い段階で主治医から家族に説明、再度ホーム側も出来ることを説明し意向を確認し、方向性を共有している。コロナ禍での看取り事例が有り、家族は窓越しで経過を見守り、最後の30分間を居室で対面し看取りを行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応についてのマニュアルを作成し、すぐに見えるところに置いてあります。また、年1回以上は内部研修を行うことで緊急時に慌てることの無いように対策しています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年3回の避難訓練を行っており、そのうち1回は消防の方に立ち合いを願いをしています。また、緊急時には近隣の方にお手伝い頂けるようお願いしています。</p>	<p>年3回避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けている。夜間想定で避難誘導訓練、初期消火訓練を実施し、2回は自主訓練を実施している。風水害訓練も実施している。消火設備の点検も業者に依頼している。備蓄は水・カップ麺・湯煎ご飯・缶詰などの食料とリハビリパンツ・ポータブルトイレ・カセットコンロ・懐中電灯等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修にプライバシー等の研修を盛り込みながら、利用者を人生の先輩ととらえ、お一人お一人が誇りをもって生活することが出来るように態度や言葉かけを振り返りながら支援しています。</p>	<p>年1回、接遇や言葉遣い等、内部研修を実施し、必要時ミーティングで勉強会を実施している。トイレや入浴は羞恥心に配慮し、声掛けは耳元で小さな声でしたり、入室時はノックと声掛けをする等、人格の尊重やプライバシーに配慮している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ミーティングやカンファレンスを利用して、本人の状態に応じて希望や自己決定が出来るような支援についての話し合いを行っており、個別に対応する事で話のしやすい環境作りに努めています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝の段階で利用者お一人お一人に希望を聞きながら、その一日を本人が納得した形で過ごすことが出来るように柔軟な姿勢で支援にあたるようにしています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>朝の整容の際は本人に身だしなみをして頂き、入浴時や外出時は本人が好きな服を着ることが出来るように支援しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に応じた形で食事の準備やメニューの決定を行い、食事の時間が楽しみになるようにしています。	庭の菜園で収穫した食材を使って職員が献立を作成している。食形態も普通食からミキサー食まで提供している。代替えで提供することもある。季節行事に応じてメニューを考え、誕生日は利用者と一緒に手作りのケーキを作り皆で祝っている。もやしの根切り、人参や玉ねぎの皮剥き、下膳、お盆やテーブル拭き等、一緒に行っている。コロナ禍でも楽しみが持てるよう毎月鉄板の日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食や摂水の状態を記録に残しながら、十分な摂取が出来るように補食や補水がいつでもできるように準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを利用して、義歯の具合・口腔内の観察を行い、本人の希望や必要に応じて歯科医と相談しています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄はトイレで行うことを基本としており、一人一人の排泄状況を記録し、その人に応じた排泄介助を行うことで、自然な形での自立支援が行えるように努めています。	排泄チェック表で排泄パターンや個々人の仕草等、特徴を把握し、日中は全員トイレへ誘導し排泄支援をしている。立位訓練を毎日5回程度実施し、下肢筋力の維持に努めている。定期的なトイレ誘導でパット汚染の減少や便意がわかるようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄状況を記録しており、飲食の摂取量、運動量などを工夫して自然な排便を支援していますが、必要な時は緩下剤の使用を主治医に相談することで便秘の予防を心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週に2回以上としており、タイミングについては、本人の希望に添えるようにしています。	入浴は週2回午前中に実施している。オムツ使用者は毎日陰部洗浄を行い、清拭や足浴支援も行っている。希望に応じて同性介助を実施し、季節のゆず湯や冬季は入浴剤を使用し楽しめるようにしている。拒否がある場合、時間をずらしたり、声掛けを工夫し、無理強いはしていない。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望だけでなく、表情やその日の状況にも合わせて安心して休息出来るような環境作りに努めています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は職員がいつでも見えるところに置いてあり、内服薬の変更等があった時には申し送りノートも利用することで職員全員が内服薬について理解することが出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や意向を把握することで、集団や個々で役割や楽しみごとをしながら生活することが出来るように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナの影響でご家族との外出が出来ないため、季節ごとの行事や受診だけでなく、個別でのドライブも楽しむことが出来るように支援しています。	年間計画を作成しているが、コロナ禍で外出支援が難しい状況である。個別でホーム周囲の散歩や外気浴、コスモス見物、ドライブ等支援している。定期的な医療機関受診時にドライブを楽しんだり、ホーム内で手作り神社・賽銭箱・おみくじを準備し初詣気分を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、いくらかのお金を持っている方もいます。希望時には一緒に買い物に行き、お金を支払っていただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持たれている方もおり、持っていない方もホームの電話は希望時に使用することができる事をお伝えして実際にかけてられています。また、定期的に好きな方へ手紙等を書くように声掛けも行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には季節の手作りの貼り絵、塗り絵を一緒に作って飾り、季節感が分かるように配慮しています。また、共有スペースは、利用者様の意見を取り入れることで居心地の良い環境作りが出来るように努めています。	玄関には花の鉢植えがあり、空気清浄機、加湿器、温湿度計がありエアコンで快適な環境となっている。採光は遮光カーテンで調節している。壁には季節ごとの貼り絵、塗り絵等の作品を掲示している。バリアフリーの和室やテレビやソファも数箇所に配置し、利用者同士の会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでも食事用のテーブルだけではなく、ソファが3ヶ所に配置されており、希望時は誰でも利用できるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物を持参してもらい、配置や飾り付けを本人と一緒にすることで、落ち着いて過ごすことが出来るような環境を作るようにしています。	居室は介護ベッド、エアコンが設置されている。テレビやタンス、鏡台、神棚、位牌、テーブルや椅子等を利用者に確認しながら配置している。ぬいぐるみや家族の写真、孫の写真やプレゼントされた物が飾られる等、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の状態を共有することで、一人一人の持てる力の把握に努め、本人がしたい事や出来る事を安全に行うことが出来るような環境作りに努めています。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない